

令和6年度の概要です。

授業科目名	社会学 I
授業科目名（英字）	Sociology I
時間割	前期 月曜日 4校時 L-8 1 2 ← 令和7年度は、金曜日2校時です
対象年次及び学年	2年次
担当教員	河合 史子
ナンバリングコード・水準	
ナンバリングコード・分野	
ナンバリングコード・ディプロマ ポリシー(DP)	cba
ナンバリングコード・提供部局	L
ナンバリングコード・対象学生	
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応	
ナンバリングコード・授業形態	Lg
ナンバリングコード・単位数	2

関連授業科目	社会学B（全学共通科目）
履修推奨科目	社会学B（全学共通科目）
学習時間	講義90分×15回＋自学自習(準備学習 30時間＋ 事後学習 30時間)
授業の概要	本授業では、個人と社会がどのような関係にあるのか、また、身の回りの事象や「当たり前」とされている仕組みや考え方がどのようにして社会的に作られているのか、といったことについて社会と、文化や時代が異なれば「意味付け」も異なることを学ぶ。「正しい答え」を提供するというよりも、授業において提示される社会学的な概念を自身の日常生活に引き寄せてどのように解
授業の目的	社会学の視点を習得するとともに、日常生活や身の回りの事象に対してそれらの視点をを用いながら議論や考察ができるようになること。また、自身で「問い」を立てて、それについて社会学
到達目標	1.身の回りの事象や日常の自明性について社会学の視点をを用いながらメタに認識できるようになる 2.身の回りの事象や日常の自明性がどのように社会的に作られているかということについて舞台劇の手法を通じて、分析・考察・表現できるようになる 3.自身で「問い」を立て、その問いに対して社会学の視点をを用いながら分析、考察できるようになる
成績評価の方法	授業内課題、ミニ発表、レポートで評価します。 ・リアクションペーパーや授業内における活動への参加:30%（到達目標 1・2・3 に対応） ・舞台劇への参加：30%（受講人数を鑑みて受講生と相談の上詳細は決定します）（到達目標 1・2 に対応） ・最終レポート（パワーポイント、ポスター、音声・動画作成等に変更の可能性があります）40%（到達目標 1・3 に対応）
成績評価の基準	成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。
授業計画並びに授業及び学習の方法	第1回：イントロダクション 第2回：身の回りのあれこれを「舞台劇」として分析してみる：監督視点、アイとミー 第3回：ソーシャルプラクティス視点で舞台劇を深める 第4回：ソーシャルプラクティスと前近代～近代 第5回：舞台劇のテーマ決め、役割分担 第6回：舞台劇の作り込み（1）どんなルール？どんな小道具？どんなセリフ？ 第7回：舞台劇の作り込み（2）どんな感情？どんな欲望？どんな前提？ 第8回：舞台劇の作り込み（3）練習・舞台準備など 第9回：（学生による舞台劇）：舞台劇の実演、分析・解説 第10回：なぜ舞台劇が成り立つのか？：分類と「意味」の共有、ラベリング 第11回：社会的に「意味」が作られる過程：ラベリング・スティグマ、予言の自己成就 第12回：「意味」はどのように歴史的に作られてきたのか：フォーコー 第13回：（レポートテーマ発表・フィードバック）、レポートの書き方 第14回：私たちは世界をありのままに理解することができるのか？ 第15回：まとめと振り返り ※本科目は「社会学、経済学」区分における一般的包括的内容を含む。第1回から第15回を通して一般的包括的な内容を網羅する。 ※この科目は対面形式で実施することを基本としますが、状況によってオンデマンドやオンライン形式に変更する可能性があります。授業の進捗状況によってシラバスの内容が前後したり、

	【自学自習のためのアドバイス】 毎回の授業で学んだ概念について、日常生活やメディア等でどのように紐づけられるか探してみてください。また、授業と関連する文献を配布するので読み、自分なりの疑問や著者の意見レポートを作成します。 (1) 社会とは何か、自分と社会はどのような関係にあるのか考えてくる(3 時間) (2) 身の回りの事象について「舞台劇」として分析してくる(3 時間) (3) 身の回りの事象についてソーシャルプラクティス視点で分析してくる(4 時間) (4) 異なる時代における日常的な実践について調べてくる(4 時間) (5) 舞台劇のテーマに関して日常生活でどのように表現されているか調査し調べてくる(6 時間) (6) 舞台劇のテーマに関わる規範や物質、セリフなどを日常生活中で調べてリストアップする(5 時間) (7) 舞台劇のテーマに関して期待される感情、欲望、その背景にある前提について調べて考察する(4 時間) (8) 舞台劇の作り込み、練習、小道具準備などを行う(6 時間) (9) 舞台劇の振り返り・考察を行う(3 時間) (10) 分類と「意味」の共有、ラベリングに関する文献を読んで自分の考えを整理する(4 時間) (11) ラベリング・スティグマ、予言の自己成就に関して日常生活中で観察し記録する(4 時間) (12) 自身の興味のあるテーマについてフーコーの視点から調査する(4 時間) (13) レポートに関する調査・分析(4 時間) (14) レポート執筆(4 時間) (15) これまでの授業の内容を復習し、レポートについて考えを深める(4 時間)
教科書・参考書等	授業中に適宜配布します。
オフィスアワー	授業終了後(水曜12:00-12:30)、教室において(他の時間帯を希望の際にはメールなどで連絡をください)。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	他の専修や他学部からの受講も歓迎します。 受講生の数や進度、反応によって授業計画に変更が生じる場合があります。